

# 防災力を高めるための防災教育に関する研究

## —その6 防災教育事業からみた 愛知県における小学校防災教育の現状分析—

準会員 ○ 仲谷 美咲\*1  
正会員 石川 孝重\*2  
正会員 伊村 則子\*3

防災教育事業 小学校 愛知県  
静岡県 東京都 地震災害

### § 1 はじめに

平成14年4月に地震防災対策強化地域が拡大指定され<sup>1)</sup>、愛知県は強化地域が新城市1市から名古屋市を含む58市町村へ拡大され、対策が急務となった。加えて南海地震による被害も危惧されている地域である。本報では、このような状況にある愛知県の小学校防災教育に注目し、静岡県・東京都と比較しながら、行政による防災教育事業の現状を整理し、防災教育に必要な要素を導き出す。

### § 2 地震防災対策事業の概要と学校防災教育事業

愛知県について地震防災対策事業の現状を資料<sup>1,2)</sup>より整理し、事業全体の中で位置付けられている防災教育事業については、愛知県教育委員会の防災担当者に平成16年8月にヒヤリング調査を行った。また、防災先進県である静岡県、首都圏である東京都を比較対象に選定し、同様に資料<sup>3,4)</sup>とヒヤリング調査により現状を明らかにした。

2.1 愛知県 東海地震の想定震源域の見直し以降、愛知県は表1のように地震防災対策<sup>2)</sup>を展開してきた。

表1 想定震源域見直し後の愛知県の地震防災対策

平成13年	9月	東海地震の想定震源域の見直し
	12月	「愛知県地震対策会議」の設置
平成14年	2月	地震防災に関する県民意識調査の実施
	3月	地震防災リーフレットの作成・配布
	4月	地震防災対策強化地域の拡大指定
	11月	「あいち地震対策アクションプラン」の策定

学校防災教育については、アクションプランに位置づけられ、「県立学校地震防災対策マニュアル作成指針」の策定や防災教育参考資料の作成・配布などが行なわれている。また、静岡県を手本とした「親子で学ぶ参加体験型地震防災教育」<sup>9)</sup>が平成15年度から始まり、15年度8校、16年度48校で実施された。これは、小学校を対象に保護者や地域住民との協力による地震防災イベントと総合的な学習の時間での防災教育の実践を基本としたものである。モデル校は地震防災対策強化地域の市町村から1校ずつ選出され、学習項目は地域性も考慮し学校側に一任される。

2.2 静岡県 県全体の事業は、昭和51年から東海地震説を受けて地震防災対策を実施し、平成7年阪神・淡路大震災の教訓を基に「地震対策300日アクションプログラム」を、平成13年にこれを発展させた「静岡県地震対策アクションプログラム2001」を策定した。県全体で地震防災活動を展開し、情報公開やバックアップ体制が整っている。

学校防災教育は「防災教育基本方針」を基に体系的に進んでいる<sup>9)</sup>。地域防災に学校が積極的に参加することを目

標にした事業「参加型防災訓練推進モデル校」<sup>7)</sup>は、2年間を委嘱期間として県内の小・中・高等学校・養護学校からモデル校を選出し、平成14・15年度は7校で実施した。なお、地域の連携を深めるために小・中学校は隣接した学校が指定される。「防災教育推進のための連絡会議」は実施率99%に達し、地域と連携できる状態が整いつつある。

2.3 東京都 都全体の事業は、震災復興マニュアルの作成や帰宅困難者対策など地震発生後に主眼をおいた対策が目立ち、防災まちづくりの観点から施設構造物の安全化などが行なわれている。

学校防災教育については「学校防災マニュアル」の策定<sup>8)</sup>のほかにリーフレット「地震と安全」と指導マニュアルを配布しているが、都の単位で普及状況は把握していない。また、都として直接学校に働きかけている事業はない。

2.4 分析 各都県の学校防災教育事業の比較を表2に示す。静岡県は「防災教育基本方針」を基盤に網羅され、愛知県は部分的な対策の現状にあることがわかった。

表2 各都県の学校防災教育に関する事業の比較

	愛知県教育委員会	静岡県教育委員会	東京都教育委員会
教育基盤		「防災教育基本方針」の策定	
マニュアル	「県立学校地震防災対策マニュアル作成指針」の作成	「学校地震防災対策マニュアル」の作成	「学校防災マニュアル」の策定
意識啓発	児童生徒用地震防災教育参考資料の作成	地震対策リーフレットの作成・配布	リーフレット「地震と安全」の配布
指導者のケア	防災教育指導者研修の実施	教職員への研修の実施	
実態調査		「学校防災に関する実態調査」の実施	
地域との連携		「防災教育推進のための連絡会議」の促進	
防災教育実践事業	「親子で学ぶ参加体験型地震防災教育」(小学校対象)の実施	「参加型防災教育推進モデル校」(小・中・高等学校・養護学校対象)の指定	

### § 3 小学校防災教育の事例調査

各都県の小学校防災教育の事例を収集し、教育内容の比較を行い、愛知県の防災教育の位置づけを考察した。

3.1 調査方法 愛知県は「親子で学ぶ参加体験型地震防災教育」事業のモデル校8校に、独自に実施の小学校2校の事例<sup>9)</sup>を対象とした。静岡県は平成14年度静岡新聞主催で行われ愛知県の事業モデルとなった親子防災スクール実施4校と、「参加型防災訓練推進モデル校」事業のうち3校を対象とした。東京都は教育委員会の事業がないため資料で収集した事例<sup>10), 11)</sup>を対象とした。継続的な学習を実施している小学校もあるが、ここでは各小学校に共通した防災訓練

などのイベント的な事例を比較した。結果を表3に示す。

さらに、収集した防災教育事例の中で特徴的な取り組みをしている小学校の防災教育担当の先生に対し、平成16年12月に防災教育の概要・必要事項・問題点などヒヤリング調査を行った。実施校は表3の網掛けの4校である。

**3.2 各都県の特徴** 各都県による教育内容の特徴はあまりなかったが、小学校防災教育に対する姿勢の違いが明らかとなった。愛知県は小学校を拠点に地域防災を高めていこうとする傾向があり、静岡県は盛んな地域防災の中に学校がどう関わっていくかを模索する傾向があった。東京都での取り組みは、集めた事例においては学校ではなくNPO・自主防災組織が学校に働きかけているものが多く、地域としての防災力が高い傾向が見られた。

**§ 4 愛知県の小学校防災教育プログラムに対する提案**

以上より、  
図1に示すように「体験・継続的な学習・環境の整備」を柱とし、ヒヤリングで必要と指摘された「中学校・地域との連携」

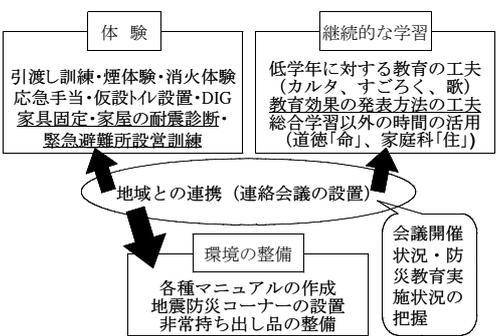


図1 愛知県の小学校防災教育に必要な要素

強化」「避難所設営訓練の実施」、また愛知県のモデル校で反響が大きかった「家具固定・家屋の耐震診断」などを、愛知県の今後の防災教育に必要な要素として提案する。調査・考察から、防災教育の方法は各学校の方針や予算状況によって様々であり、明確な改善策はないが、他機関との協力は欠かせないことがわかった。

本研究は当時研究室所属の飛田恭江君の協力を得た。また、ヒヤリングにご協力戴いた方々に感謝する。

**【引用文献】**

- 1) 気象庁：東海地震とは、[http://www.jma.go.jp/JMA\\_HP/jma/press/hanteikai/q1/q1.htm](http://www.jma.go.jp/JMA_HP/jma/press/hanteikai/q1/q1.htm), 2004年5月10日。
- 2) 愛知県：愛知県のホームページ、<http://www.pref.aichi.jp/>, 2004年5月10日。
- 3) 静岡県：静岡県総務部防災局、<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/index.html>, 1999年3月1日。
- 4) 東京都：東京都公式ホームページ 安全・防災、<http://www.metro.tokyo.jp/URBAN/anzen.htm>, 2004年9月18日。
- 5) 愛知県教育委員会：平成15年度親子で学ぶ参加体験型地震防災教育実践事例集、愛知県教育委員会健康学習課, 2004年2月。
- 6) 静岡県教育委員会：防災教育の推進について、<http://www.pref.shizuoka.jp/kyouiku/kk-01/bousai/main.htm>, 2004年6月20日。
- 7) 静岡県教育委員会：平成14・15年度防災教育推進事業 防災教育推進モデル校研究成果報告書、静岡県教育委員会教育総務課, 2004年3月。
- 8) 東京都教育委員会：東京都教育委員会ホームページ、<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>, 2004年9月19日。
- 9) (財)消防科学総合センター：防災まちづくり大賞、<http://www.isad.or.jp/cgi-bin/hp/index.cgi>, 1999年1月18日。
- 10) 都市防災協議会：防災まちづくり学習の推進、[http://www.toshibou.jp/katsudou/kouen/learn/gakusyuu/kouen\\_main.html](http://www.toshibou.jp/katsudou/kouen/learn/gakusyuu/kouen_main.html), 2004年9月27日。
- 11) 練馬区：防災訓練、<http://www.city.nerima.tokyo.jp/bousai/kunren/kunai-kunren/>, 2004年10月16日。

表3 各都県の小学校防災教育事例（イベント）の比較

愛知県	静岡県										東京都													
	豊明市立三角	飛島村立飛島	知多市立旭東	美浜町立布土	酒尾市立花ノ木	三好町立南郷	新城市立八名	田原市立赤羽根	蒲原市立大里	豊橋市立津田	袋井市立西	伊豆市立大見	湖西市立白須	焼津市立和田	熱海市立泉	静岡市立中島	藤枝市立藤枝第一	藤原市立南町	藤原市立田網	藤原市立立光	世田谷区立光が子	杉並区立立大	杉並区立第六	
愛知県の概要	2003年度教育委員会が実施した「親子で学ぶ参加型地震防災教育」モデル校 この他に総合的な学習の時間での取り組みも実施している										2002年度静岡新聞主催で実施された「親子防災スクール」実施校 愛知県の「親子で学ぶ参加型地震防災教育」の手本 1日限りのイベントである						都全体で実施する防災教育に関する事業がない NPO、自主防災組織などの働きかけによる訓練、イベントが多い							
総合的な学習の時間の発表	○																							
児童引き渡し訓練	○																							
バケツ消火	○	○																						
防火服体験	○	○																						
地震車体験	○	○																						
はしご車体験	○	○																						
煙体験	○	○																						
応急手当講座	○	○																						
炊き出し訓練	○	○																						
仮設トイレ設置訓練	○	○																						
緊急避難所設営訓練	○	○																						
災害の被害診断	○	○																						
家具の固定方法	○	○																						
非常用品展示	○	○																						
防災ビデオの上映	○	○																						
防災講座(大学教授)	○	○																						
DIG(園上防災訓練)	○	○																						
親子で遊ぶ「防災カルタ」とり	○	○																						
防災パネルの展示	○	○																						
阪神大震災の話を聞く会	○	○																						
震前震中地震の体験談	○	○																						
レスキュー体験	○	○																						
休み時間時の予告なし避難訓練	○	○																						
地域の防災訓練への参加	○	○																						
防災センター見学	○	○																						
ガラス飛散防止フィルム貼り	○	○																						
救助袋体験	○	○																						
防災ヘリ救助活動	○	○																						
防災クイズ	○	○																						
地震防災作品展の開催	○	○																						
地震防災オリジナル曲作成	○	○																						
応急担架作り	○	○																						
防災オリエンテーリング	○	○																						
緊急時の電話のかけ方講座	○	○																						
アンケート調査	○	○																						
地区防災会議	○	○																						
防災すきん作り	○	○																						
津波の巻かれ幕展示	○	○																						
中学校と合同の避難訓練	○	○																						
集団下校訓練	○	○																						
独居者人訪問	○	○																						
宿泊体験	○	○																						

\*1 日本女子大学住居学科 学生  
\*2 日本女子大学住居学科 教授・工学博士  
\*3 武蔵野大学環境学科 講師・博士(学術)

\*1 Student, Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ.  
\*2 Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., Dr. Eng.  
\*3 Lecturer, Dept. of Environmental Sciences, Musashino Univ., Ph. D.